

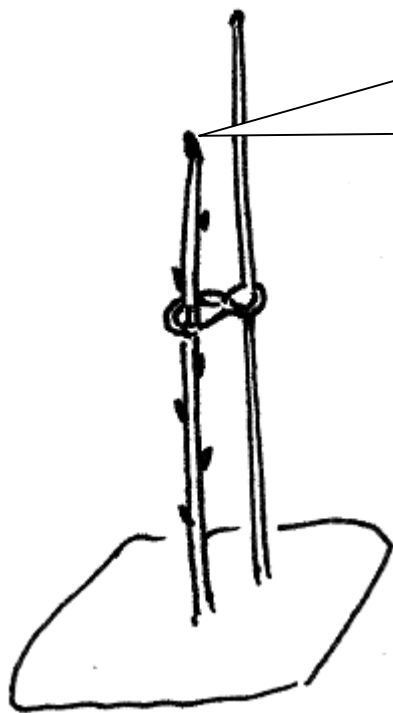
植え付け時点

60センチから120センチぐらいのところで切る。雪の降る地域は雪に枝の付け根が埋もれないように考慮し切る

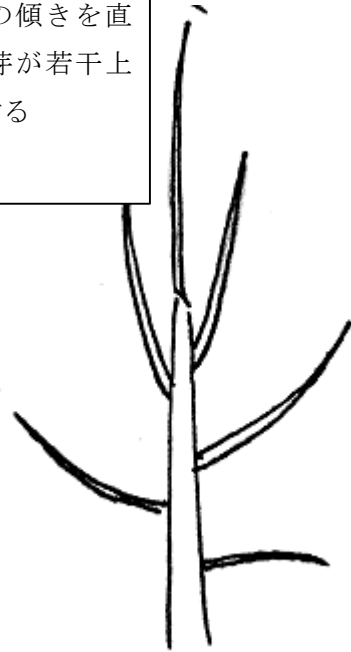


枝の先端は枝自体が熟さずに不完全なので未熟な部分(枝が充実しておらずカスカスの状態)は切り除く。枝先を持ち下に引っ張ってみて曲がった所の付け根から先端までが未熟

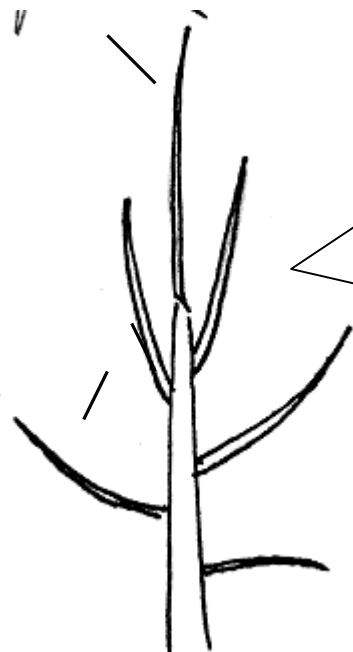
ここらへんから枝先までが未熟



支柱を立て枝の傾きを直し切った先の芽が若干上に向くようにする



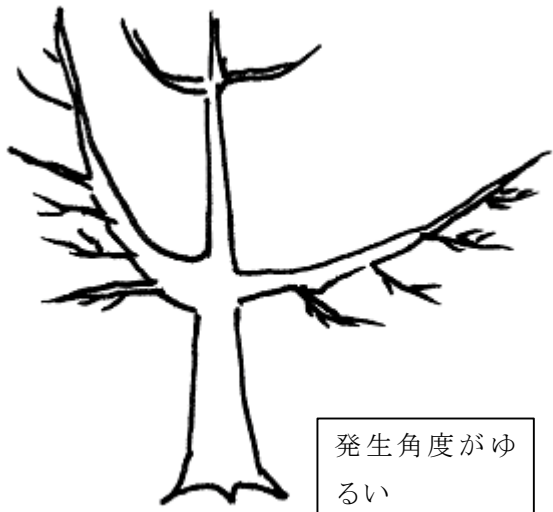
植え付け1年目(秋)



主枝の先端と元気のいい側枝は切る

残った側枝が45度以上の場合40度から45度に紐で地面から誘引する



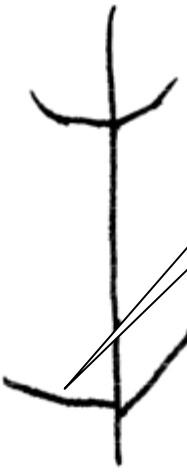


同じ角度で誘引をした場合
合としない場合。誘引しない
方はげんきになる

発生角度がゆるい

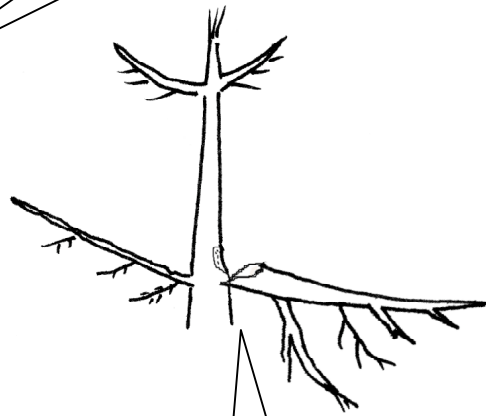
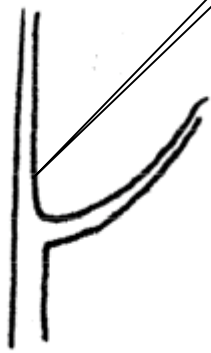
発生角度がゆるいと綺麗な
付け根になる

発生角度がきついと巻きが入る。
大きくなってから折れてしまったり、
巻きが入った所に虫が住み着いたり
病気になる原因にもなる

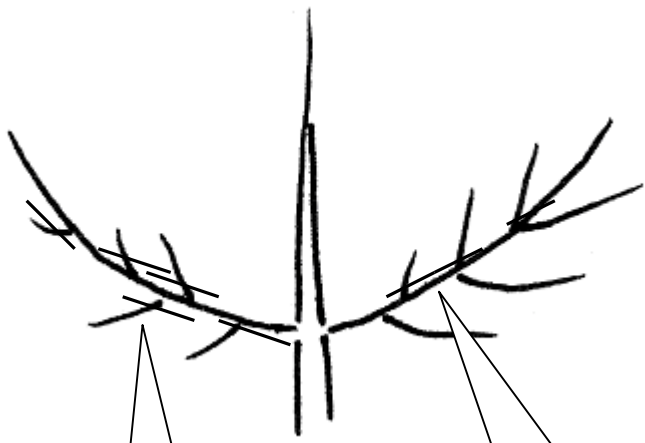


発生角度がきつい

大きくなった状態 巻き（中に表皮が
めり込んでいる状態）が大きく入っている

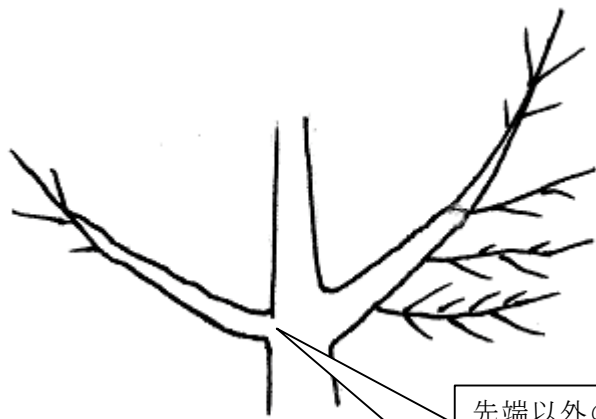


大きくなると折れやすい

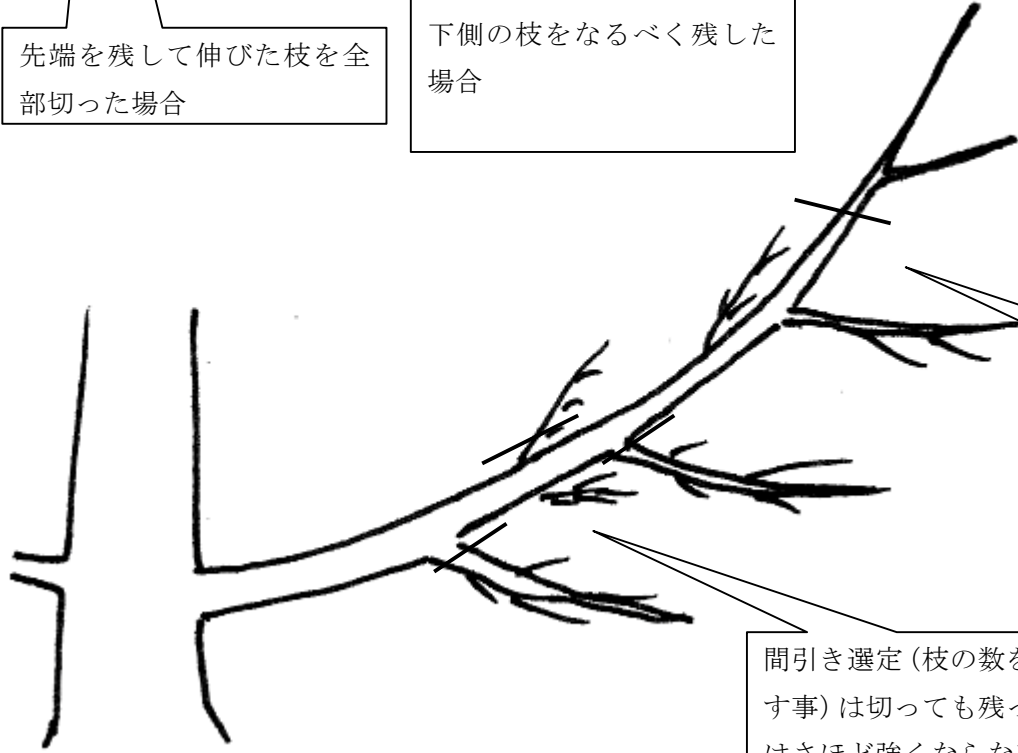


先端を残して伸びた枝を全部切った場合

上に伸びた枝だけを切って下側の枝をなるべく残した場合

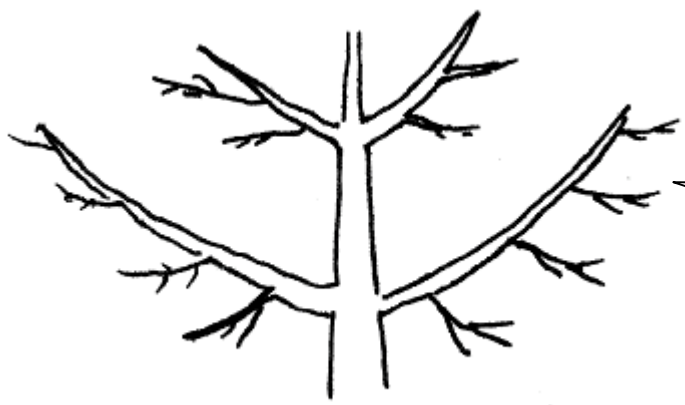


先端以外の枝を全て切除した場合、ある程度枝を残した枝に比べ枝の太り具合が少なくなる



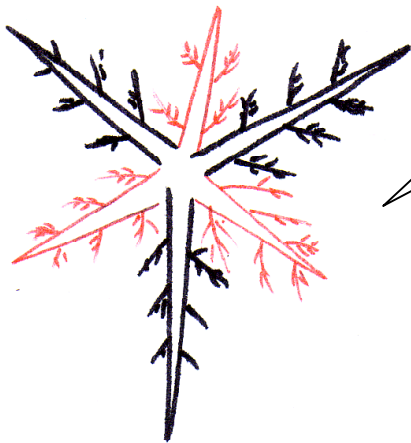
切り戻し剪定 (枝先を短くつめる剪定) は切った枝先から元気の良い新梢が出て再び元気良くなる

間引き選定 (枝の数を減らす事) は切っても残った枝はさほど強くならない



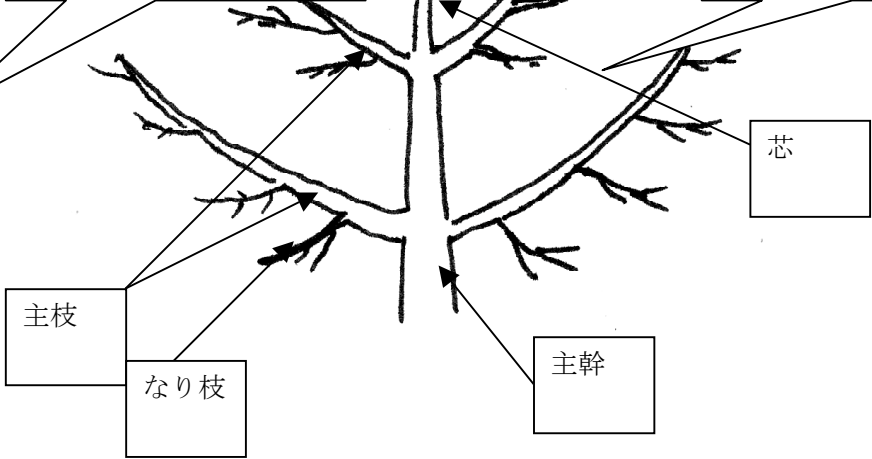
最終的な理想の型
下の方に 3 本 上側に 3 本

目標とする型 下に主枝 3 本
上に主枝 3 本



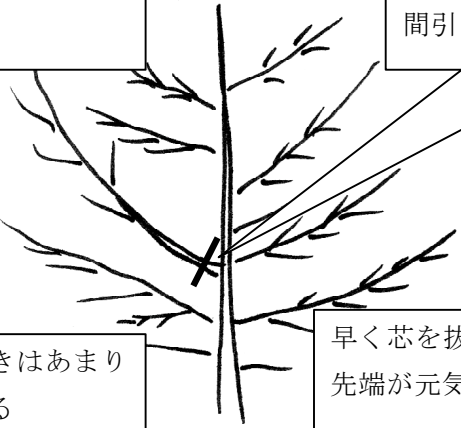
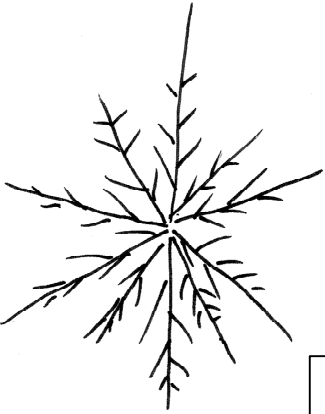
上から見た感じ 黒色が
下段に主枝が 3 本 赤色
が上段に主枝 3 本

横から見た感じ 下段に
主枝 3 本 上段に主枝 3
本



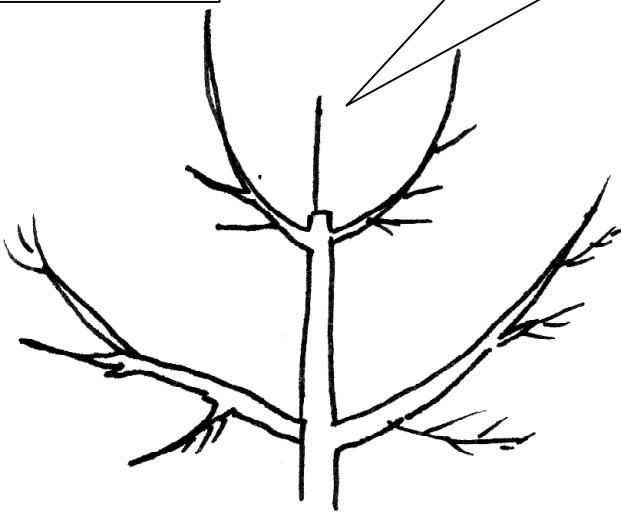
若木のうちはなるべく枝
を残し (強すぎる枝を間引
く程度) 実をならせ木が落
ち着かせる

図のようになるべく枝を残し極端
に他の枝の強さを押さえすぎてし
まうような枝のみ実線のところで
間引く



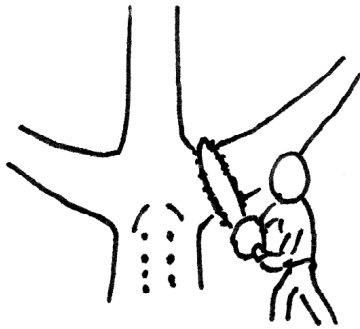
大きくなった時の芯抜きはあまり
遅いと大きくなりすぎる

早く芯を抜きすぎると横の主枝の
先端が元気よくなりすぎる





養分は枝が細いと入りにくく太い枝には入りやすい 極端に枝の太さが違うと太い枝はなおさら太く細い枝は細いままとなってしまう。



太くなってしまった大枝を切るときにはいきなりは切らない (枯れる原因になる) 数年かけて枝を切っていく



あまり元気の良いような場合には根を切る スコップでさくらんぼの木の周りを円周の 2.5 倍~3 倍位の位置で根を切るつもりで深くスコップを刺す